

平成27年度第2回「墨田区子ども・子育て会議」 「評価指標検証ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成28年3月24日（木）午後7時00分～9時00分
会場：墨田区役所 131会議室

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 評価指標検証ワーキンググループの目的等について	資料1
(2) 各検討課題について	資料2
(3) その他	

3 閉会

配布資料

資料1

「評価指標検証ワーキンググループ」の概要について

資料2

「評価指標検証ワーキンググループ」における検討課題一覧

出席者(敬称略)

委員

西島 由美（にしじま小児科院長）

森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）

熱田 美帆（公募）

小林 佳香（公募）

荘司 美幸（公募）

佐藤 摩耶子（公募）

近藤 ゆき江（八広幼稚園長）

青塚 史子（八広保育園長）

< 欠席委員 >

木村 律子（公募）

陳 晨（公募）

関 舞衣子（公募）

< 傍聴 >

なし

部課長出席者

小倉 孝弘（子育て支援課長）

事務局出席者（検討チーム含む）

酒井

事務局（株）地域総合計画研究所）

佐々木

2 議題

(1) 評価指標検証ワーキンググループの目的等について

委員	前回のインタビューは、アンケート用紙を配付された人ではない人にインタビューしたのか。インタビューはアンケートと同様の質問を行ったのか。
事務局	インタビューで同じ質問は行ってない。資料に記載してある内容が質問項目である。
委員	ニーズ調査を行った大学生はどこから選んできたのか。これは20歳未満まで年齢で抽出したのか。
事務局	成人前調査として高卒以上の方に行ったため、そこに大学生も含まれている。単純に住民基本台帳から年齢で抽出し、その方が高校生だったり、大学生だったりしている。

(2) 各検討課題について

事務局 (地域研)	(資料2を説明)
委員	目的に、ニーズ調査で数値が変化したこと理由とあるが、現時点でまだ変化したかどうかは分からない。
事務局 (地域研)	現時点で指標の評価が定まっていな中で行うことに配慮は必要だろう。
委員	アンケートでは拾えない声を、どう拾うか考えれば良いのか。
事務局	ニーズ踏査で「はい」「いいえ」で終わる部分の理由を聞けると良い。インタビューで、そうしたことを深く聞けると良い。
委員	前回の対象者に保護者はいたのか。
事務局	ニーズ調査でも対象としていたが、一般の保護者というわけではない。
委員	何かたたき台のようなものがあれば良い。
委員	その理由を聞いただけなのか、本音を聞くのか。それにより、インタビューの内容も異なってくると思う。
委員	本音を聞いたとき、相手は本音を聞いてくれたと少しは期待感を持てるのではないか。
委員	前回実施したことによる評価はどうか。良い材料となりえたのか。
事務局	ある程度の内容は聞けたと思うが、時間の関係から、深いところまで聞けない部分はあった。
委員	グループでインタビューを行っていることも、深く聞けなかった理由だろう。

委員	そういった部分を改善しないと本音の部分は聞けないだろう。
委員	1対1でも良いだろう。
委員	2対1でも良いのではないかな。
委員	発達に不安のある子どもの保護者にも、本音を聞けるのではないかな。
委員	特別支援学級の子どもの保護者に聞けば話してくれるだろう。
委員	アンケートは目的が大事で、結果を利用している行政側から何か形で出てくれば良い。
委員	評価指標検証としているWG名が硬い。もう少しかみ砕いてくれると良い。
委員	型通りの回答か、本音を聞きたいのか。
委員	本音を聞いても、それをどうしていくかが大事である。
委員	どういう内容を聞きたいか、事務局で考えてくれると良い。
委員	子育て支援施策に対してどう考えているかを聞けば良いが、評価指標の父親の子育て状況は、あまり墨田区の施策に関係ないのではないかな。困ったときに誰か助けてくれるかといったことを聞けば良いのではないかな。
委員	高校生へ結婚観の理由を聞いても個人的なことであり、こうしたことで本音を聞いてもあまり意味がないのではないかな。
委員	結婚観や子どもの希望を中学生や小学生に聞いても、どうなのか。発達に障害のある子どもたちの保護者も、小さいうちは困っていることがはっきりしていないが、大きくなればはっきりしてくるため、意見は出してもらった方が良い。
委員	公園の遊具についても意見はあったが、今でもそういった意見があるのかどうか。また、高校を卒業してから墨田区を出ていく理由もそういったものがあるのか。
委員	知らなかったという事実が分かれば、それも今後役に立てることができる。
委員	知らないのが大半だろう。役所が意見を聞きたいとしても、なかなか意見は出ないのではないかな。それよりも、事業や計画の内容を説明した後に聞いた方がスムーズだろう。
事務局	知っているけども、敷居が高くて行きづらいという人もいる。
委員	区民も役所もお互いに努力して、情報を得たり発信したりしないといけない。
委員	昨年度のシンポジウムのような形で行うのも一つの手である。
委員	みんなで意見を共感できるような雰囲気で行えると良い。
委員	小学校入学のための情報が母親はほしい。昨年度のシンポジウムで行ったブースによる各保育園の説明を、小学校でも行えると良い。
事務局	保育コンシェルジュによるセミナーが好評で、そこで情報の周知もしている。
委員	そこでインタビューを行えば良いのではないかな。
委員	そこで何が不満で、不安なのか聞けるのではないかな。母親の困っていることを拾い上げていくのが良い。
委員	質問するよりも、そうした場を作ることが大事だろう。
委員	高校生の場合、区外の高校に通学している高校生で、中学校の卒後座談会のような形でやれると良い。
委員	何カ所か色々なシチュエーションで聞いていけば良いのではないかな。
委員	保育コンシェルジュによるセミナーで行うなど、何かと抱き合わせた方が良い。
委員	具体的な目的や目標があった方が人は集まる。また、出された意見にどれくらい対応が可

	能か教えてくれると良い。より具体的にテーマを定めても良いのではないか。
委員	錦糸公園で話を聞いても良いのではないか。
委員	区内のデパート等で行っている育児相談を活用しても良いのではないか。
委員	どう思うかを聞くよりも、本音を言って口火を切ってくれる人がいれば、話をしやすい雰囲気となる。
委員	色々な場で何を聞くか、適切な場所を選ぶことが大事である。
委員	対象者が5つ示されているが、すべてに聞くのか、ピックアップするのかということもある。
委員	区として対象などを絞った方が聞きやすいだろう。
委員	前回、発達に心配のある子どもの保護者へインタビューを行ったのは、こうした保護者の声がニーズ調査で出てこなかったからか。
事務局	ニーズ調査の無作為抽出では回答が少ないだろうとの予想から行ったものである。
委員	区として何を知りたいのかを抑えておくことが必要である。
委員	次回、区として具体的に何を聞きたいかを出してくれると、こちらとしても助言できる部分は出てくる。保育園に入れるかどうか、仕事に復帰できるかどうか不安に感じている人も多い。
委員	保育園へ入園させた自分が正しいのかどうかといった、その選択や道が正しいかどうか不安に感じている母親も多いだろう。
委員	例えば、育児ノイローゼの人や、ノイローゼになりかけの人をどう見付けるかもあるだろう。
委員	孤立感のある人は見ていれば分かり、支援センターに通報して対処してもらっている。
委員	幼児と小学生に聞く必要はあるのか。
事務局	幼稚園や保育園に別の人が行って話を聞くのもいかがかとのことで、園の先生からお願いしてはどうかと、前回の会議では意見が出ていた。
委員	そうすると、先生の聞き方によって統一されないような感じがする。 中学生や高校生も、学校で聞いても優等生的な回答しか得られないのではないか。
委員	中学生や高校生に対し、よく行く区の施設やイベント、よく行く場所などを聞いてみたい。
委員	今回は、何を聞きたいかを事務局から出してもらい、そこから議論を進めていく。 みんなで行って一斉に話を聞くのも手だろうし、イベントで聞くことも考えられる。
委員	個人情報の関係で、行政側から話を聞くことを断られる場合もある。
事務局	保育コンシェルジュのセミナーであれば、終了後に行うとし、また、事前に話を聞く機会を設ける旨を案内すれば良いだろう。
委員	説明コーナーや質問コーナーも設けられれば良い。
事務局	セミナーは30人定員で行っている。
委員	学童に通っている小学生や保護者に、夏休みの昼食について聞いてみたい。

次回評価指標検証 WG 開催予定

日時：平成 28 年 4 月 21 日（木）午後 6 時 30 分～

以上